

す

く

す

く

90号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2025年度 第1号 2025. 4. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

心地よい春風と共に、ワクワクの1年がはじまりました。さまざまな草木が花を咲かせる季節。その光景が子どもたちの成長していく姿にも重なります。

平素は皆様におかれましては、乳児院に対しまして、地域の皆様、関係機関の皆様、他からの皆様方の大勢の方々から心温かいご支援とご助言を賜わり感謝いたしております。本当にありがとうございます。

早いもので新しい建物に移り4年半が経過いたしました。支援方針の一つに、「わたしの居場所であるおうち」を掲げ、小規模グループケア体制のもと担当養育制による、より家庭的な環境で安全で安心できる養育に取り組んでまいりました。多くの子どもたちが家庭復帰や里親委託、施設への措置変更で退所していきますが、乳児院が実家的な場所となり、「いつでもここにいます。遊びに来たいときに来てください」というメッセージを発信し続けて、子どもたちがもつ、つながりの一部として乳児院へ普通に遊びに来られる場所でありたいと思っています。

新たな1年、個々の発育発達に合わせた養育計画、行事計画による生活体験等に職員がしっかりと取り組み、一人ひとりを大切な存在として温かく見守っていきたいと思います。引き続き、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

院長 岡尾 良一



ひとりひとりの安心
ひとりひとりの生きるチカラ



わたしのうち



理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
 (「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです)

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、
 子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切に、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。



初詣



1月1日、元神明宮へ初詣に行きました。いつもと違う場所にみんな興味津々で周りを見渡していました。本殿に着き職員と一緒にお賽銭を大事に入れ「みんなが仲良く元気に過ごせますように」とお参りをしました。

お部屋に戻ってきてからは、お正月手作りおもちゃの駒で遊びました。みんなでカラフルな駒が回っている様子を見たり、一緒に回して遊んだりとお正月を楽しみながら過ごすことができました。

保育士 山崎 友絵



いちご狩り



2月初旬、院内保育園児で木更津図那いちご園へいちご狩りに行きました。行く途中海ほたるに寄り、海風を感じながらデッキ散策を楽しんだ後、いよいよいちご狩りです。早速、どのいちごにしようか吟味が始まりました。これだと決まると、思いっきり引っ張っていちごを収穫、初めての体験に驚いたり喜んだり誇らしそうだったり様々な表情が見られました。何種類も何列もある園内を、あっちに行ったりこっちに行ったりしながら、時間いっぱいお腹いっぱい、いちご狩りを満喫した子どもたちでした。

保育士 前田 朋子



ひなまつり会



3/4にひなまつり会を行いました。会場に入場するとそこには子どもたちよりもずっと背の高い大きなひな壇があり、子どもたちはいつもと違う華やかな雰囲気を感じているようでした。職員の出し物「おべんとうバス」では歌に合わせて体を揺らす子や、次に登場する野菜を言い当てる子など様々な子どもたちの可愛らしい姿が見られ、和やかで楽しい会となりました。おやつにはお雛様の形をした「おひなさまクレープ」を食べ、五感でひなまつりを満喫する1日となりました。

保育士 田村 友菜



各居室の子どもたちの日々のエピソードをお届けします

たんぽぽ

季節の行事をととても楽しみにしている子どもたち。節が終わると「鬼が来たからお雛様が来る？その次はこいのぼり？」と大人に聞いて回ります。お散歩の移動中も月齢の大きい子が季節の歌をうたい、その歌に合わせて月齢の小さい子が体を揺らします。行事や歌とともに季節の移り変わりをを感じる毎日です。



保育士 宮野 由貴



ひまわり

最近は洋服の着脱に意欲的です。自分で靴下を選んで履こうとしたり、上着のファスナーを閉めようとしていたり、頑張る姿が見られます。難しい部分だけ保育者が手を添えて一緒に行い、最後は一人でできると、嬉しそうに拍手をしたり、「やったー！」とハイタッチをしたりする姿が見られ、一緒に喜びや達成感を感じています。



保育士 神農 麻未



こすもす

2月にいちご狩りへお出かけしてきました。2歳のAちゃんは以前遠足で購入したいちごの髪ゴムを選んで気合十分です。「今日はいちご行くからBちゃんにも貸してあげる」とBちゃんとひとつずつ結ぶと「一緒だね」と嬉しそうに2人で鏡をみていました。Aちゃんの優しい姿は微笑ましい1日の始まりでした。



保育士 岩満 実歩



ちゅーりっぷ・さくら



Aちゃんは絵本が大好きで、読み聞かせが始まると1番前に座り、物語に引き込まれるようにじっと見つめています。お気に入りの絵本では、ページに合わせて体を動かし、楽しそうに表現してくれます。大人が「おしまい！」と本を閉じると「キャー！」と拍手してくれて、その姿を見る度に、こちらまで幸せな気持ちになります。



保育士 柴田 華



あたたかなご支援をありがとうございます

ユニクロお買い物会

1月17日地域交流室がユニクロのお店になり
貴重な体験をすることができました。



戸板女子短期大学手作りおやつ会

2月21日プレイルームいっぱいにあまーい
匂いが広がり、さつまいもとかぼちゃの
「ミニどらやき」をたくさん食べました。



心理士だより

—乳児院が家庭的であるということ—

乳児院の1日。朝起きて、夜は寝て、お昼寝をして、赤ちゃんはその合間にも眠る。

そしてお食事。ミルク、軟らかいものから、朝、昼、夕とおやつへ。

乳児院の1年。春夏秋冬を感じる。毎日のお散歩、外気浴で自然を味わい、たまには車で遠くまで。

初めての時はちょっと緊張も。

暦の節目には昔ながらの行事や、今風の催し。成長を喜んだり、贈り物をもらったり。地域への外出は、はれの日の高ぶった気分。

お友達がいるから、独り占めはできないけど、楽しさもお友達の数だけある。どんな時にも必ず自分をよく知る大人がいて、みてくれるだっこしてくれる。

当たり前の日々の繰り返しや、時々の特典なできごと。それらを笑ったり、泣いたり、怒ったり、喜んだりしながら、一緒に過ごす大人と子どもたちがいる。そして振り返ると確かにある時間と場所。

それが、家庭的、ということにつながるように思うのです。

心理士 柴田 薫

新入職員紹介

新たに夜勤専従看護師2名が仲間に加わりました！



子どもたちと過ごす時間を大切に、
一人一人の気持ちに寄り添い、
安心できる存在になれるよう
日々精進していきたいと思います。
成長できるよう、笑顔で頑張ります。



子どもたちが、笑顔で楽しく
健康に過ごせる環境づくりが
できるよう、頑張ります。

【0～3 歳児の育児にお困りの方へ】

当院では育児相談を平日 9～16 時に受け付けています。担当 看護師長 小泉

【寄付金について】

当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。担当 事務 竹田

上記について詳しくは右記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289（直通）

「すくすく 第90号」2025.4.1 発行

〈発行人〉 岡尾 良一

〈編集委員〉 小泉 菜穂子 峯越 雅子 佐藤 沙紀 柴田 華 須藤 多笑